令和3年（2021年）9月15日（水曜日）第2334号　（毎月1日・15日発行）

日本女性新聞

創美流華道 第66回 涼風七夕いけばな展

またしても無観客での開催
コロナ禍で地道につなぐ花の場

創美流華道会館

創美流華道第66回涼風七夕いけばな展が7月25日、東京・東久留米市の創美流華道会館で開催された。主宰＝創美流華道家元十五世・渡邊華靖。主催＝創美華道会。後援＝東久留米市、花卉園芸新聞社。協賛＝株式会社ミライエ。協力＝菊音会、創美流華道後援会。

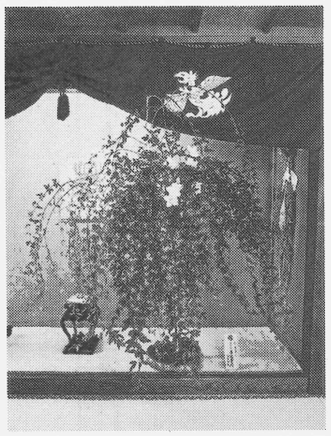
1750（寛延3）年に創流されたとされる創美流華道は昨年、270周年の節目を迎えた。創美流では毎年10月に流展、7月に七夕展を祝日と併せて3日間の会期で盛大に行ってきた。しかし、昨年に発生して現在でもまん延を続ける新型コロナウイルス感染症の影響で、いけばな界だけでなくさまざまなイベントが中止、延期などを余儀なくされている。創美流では昨年、花展の会期を1日にした七夕展は無観客で、延期して今年3月に開催した270周年記念展は関係者のみで開催した。そして、今展はまたしても無観客での開催を余儀なくされた。

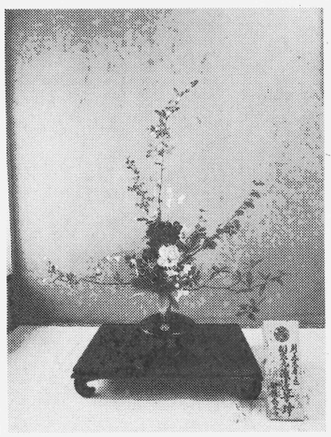
東京都ではずっと緊急事態宣言（一部まん延防止等特別措置）が発出されていることを考えれば、仕方のないことなのかもしれない。政府や自治体のやり方や都民の行動意識など何とかできる部分があるように思うが、早く状況を改善させて今までのように、またよる箏の演奏が行われた。

作品が展示された中で美しい音色が奏でられ、花展を盛り上げていた。

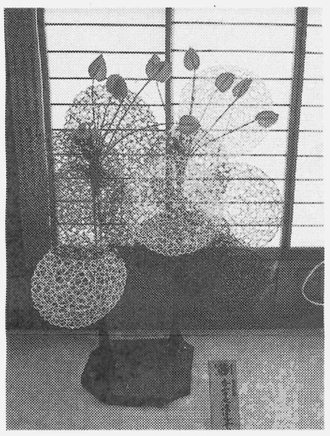
床の間に細いポールの上部の筒器に黄梅を大ぶりにいけて、クルクマを添えた家元・渡邊華靖の作品は、濃緑の黄梅の中にアクセントを添えた白いクルクマで動きのある作品に仕上げていた。水盤に赤葉万作・クルクマ・石楠花・ピラカンサス・ひおうぎ・紫陽花を新生花ならないと今展を見て切実に感じた。また、今展の午前中には菊音会（高橋琴音、中戸奏、松崎佳帆）による箏の演奏が行われた。

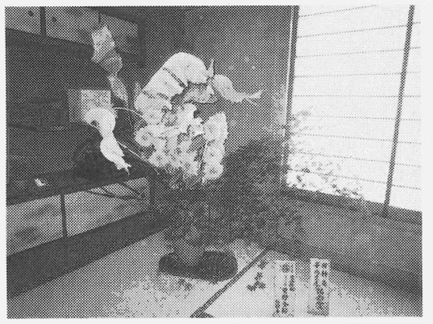
さて、今展では家元をはじめ46人が出瓶して行われた。無観客や延期などを強いられたが地道に花の場を守ってきた創美流の思いは、きっとこれからのいけばな界にもつながるように思う。活動を控えなければならない状況も理解できるが、今できることを確実に行っていくことも忘れてはならないと今展を見て切実に感じた。また、今展の午前中には菊音会（高橋琴音、中戸奏、松崎佳帆）による箏の演奏が行われた。

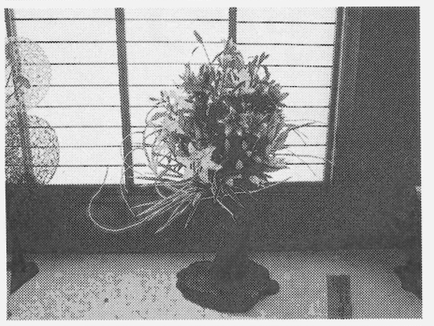

家元・渡邊華靖

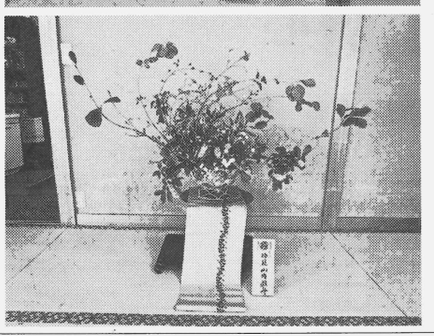

副家元・渡邊華璋

家元嗣・渡邊華闡


渡邊華芳


菅野春祐


岡田鳳梢


山内灝舟

そのほかで印象に残った作品を次に紹介した（文中敬称略）。

家元嗣・渡邊華闡＝さらしだれ桑・蓮・ゆり、菅野春祐＝枯蓮・向日葵・もみじ、大島溪舟＝ゆり・カーネーション・アイビー、渡邊華芳＝アンスリューム・カーネーション、立花翠松＝ストレリチア・アレカヤシ・ゴットセフィアナ、岡田鳳梢＝さらしだれ桑・ゆり・ニューサイラン、杉本彩鳳＝がま・つわぶき・カラー、山内灝舟＝万作・りょうぶ、小澤窓枝＝ギガンジューム、堀川靖霞＝やつで・ヒペリカム・流木、高橋樵圃＝アンスリューム・トルコ桔梗、渡邊松筠＝紫陽花・桔梗らん、渡邊雪花＝ニューサイラン・ゆり、後藤咲樹＝トルコ桔梗・ゆり・ばら、樋口景樹＝ストレリチア・サンダーソニア・ゴットセフィアナ、ソニア・アンスリューム・ゆり、古田遥雲＝ゴットセフィアナ・デンファレ、前田静宏＝ニューサイラン・トルコ桔梗・ばら、飯尾灝眞＝万作・ゆり・ギガンジューム・サンダーソニア・デンファレ、佐藤灝千＝ニューサイラン・ばら・撫子、赤見静玲＝柾・トルコ桔梗、渡邊松晴＝ストレリチア・ゆり・デンファレ・ヒペリカム、早川寛菜＝がま・ばら・サンダーソニア・トルコ桔梗・カーネーション、立花翠＝ストレリチア・サンダーソニア・ゴットセフィアナ。